1 【解き方】問一．語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。

問二．「聖人」のような立派な人であるからこそできることを指している。

問三．上人が，凡夫であるのに「腹を立てない」というのは「嘘である」と言ったことに，修行僧である法師が怒ったことをおさえる。

問四．修行僧である法師が顔を赤くして怒鳴ったので，「さては，さこそは」と言って議論を打ち切った者を考える。

問五．修行僧である法師が「生まれてから一度も腹を立てたことがない」と言ったことに，上人から「聖人でない凡夫であるのに，そんなはずはない」と言われ，「顔を赤め…叱りけり」という様子になったことを指している。

【答】問一．たとい　問二．生まれ〜候はぬ　問三．虚事　問四．上人〔の〕　問五．エ

◀口語訳▶　ある世を捨てた上人で，学識を積んだ人物である僧の庵へ，修行者がいつも来ている。その中のある修行者が，「この私（法師）は生まれてこのかた，一度も怒ったことはありません」と言うので，上人が，「凡夫は，貪りと怒りと無知の三毒を備えている。たとえ程度に差はあっても，どうしてお怒りにならないということがあろうか。怒りを起こすきっかけに出くわさない時は怒らないけれども，あるいは怒ったことを覚えておられないのか。聖人でいらっしゃるならば，そういうこともあるでしょう。凡夫であるのにこのようにおっしゃるのは，嘘であると思われる」と言うと，「怒らないと言えば，怒らないとお思いになっておけばよいではないですか。人を嘘つき呼ばわりなさるのは，どういうことですか」と，顔を真っ赤にして，首をねじって怒鳴りつけたので，「それでは，そういうことで」と言って終わった。愚かでございます。凡夫の常で，自分の過ちは覚えていないということだ。